

『イスラーム世界研究』投稿規定

1. 投稿原稿の種類

1) 論考

論文、サーヴェイ論文、研究創案ノート、臨地サーヴェイ

2) 知のインフラ構築への貢献

原典翻訳、主題年表、ディレクトリ、ビブリオグラフィ

3) 書評及び研究動向

書評論文、研究動向・研究レビュー、書評

4) フィールド報告

フィールド報告

2. 投稿原稿の構成

1) 論考は、題名、著者名、本文、引用文献リスト、図表などからなる。ただし、日本語の論考の場合は、題名、著者名、題名（英語）、著者名（ローマ字）、英文要旨、本文引用文献リスト、図表などからとなる。

2) 原典翻訳には、訳者名、書名（副題）、著者名、版数、出版地、出版社、刊行年、総ページ数を明記する。主題年表、ディレクトリ、ビブリオグラフィには、作成者、出典を明記し、資料内容に適切な形態を取る。

3) 書評論文・書評には、評者名、書名（副題）、著者名、版数、出版地、出版社、刊行年、総ページ数を明記する。

4) フィールド報告には、滞在地、滞在年月日、滞在期間を明記する。

3. 提出方法

1) 必要添付書類

原稿の冒頭に、以下の事項を明記した別紙を添付する。

- ・ 原稿の題名・種別・枚数
- ・ 執筆者の氏名（ローマ字表記を添える）
- ・ 所属機関・部局名と身分・役職（英訳を付ける）
- ・ 連絡先（電話番号と e-mail アドレス）

2) 注意事項

最終原稿と内容の英文説明及びタイトルの英訳（「書評」は不要）を電子データ（テキスト形式・Word・一太郎・TeX 等）で提出する。打ち出し原稿 1 部とそのコピー 1 部も添える。その際、注や文献表などに遺漏がないか、必ず確認してから提出する。また、うまく表示されない特殊な文字について、朱で指示するか囲むなどして、注意を喚起する工夫をする。なお、原稿は原則として返却しない。

3) 外国語の投稿に関して

外国語の投稿は、本投稿規定に準じると共に、投稿前にネイティブ・チェックを済ませておく。

4. 査読について

査読は、査読委員会によって覆面方式で行う（全カテゴリー）。

5. 著作権について

本誌に掲載された論文などの著作権は本誌編集委員会に帰属する。

6. 書式

1) 章構成

本文の章は、ローマ数字（I, II, III）を、節を算用数字（1, 2, 3）で示すこととする。

2) 転写

転写規則は、原則として『岩波イスラーム辞典』に拠るものとする。

3) 表記の原則

用語、固有名詞等の表記の統一に留意する。各国の国名、地名、人名などは、漢字による表記が慣例になっている場合を除き、原則としてカタカナ書きにする。なお、一般化していない固有の名称については、初出に限りその原語（アルファベット表記）をカッコ内に付記する。

4) 英文要旨

各論考の最初にそれぞれの英文要旨を、雑誌巻頭に雑誌全体の英文要旨を付けるので、内容の説明を 200 語程度の英文で添付する（但し、「書評」は除く）。なお、必要がある場合、英文校閲および編集は編集部で行う。

5) 数字

原稿中の年号、月日およびその他の数字は、原則として算用数字を用いる。ただし万以上の数字には、万、億、兆などを用いる。概数の場合は、十数人、十数年などとする。

西暦以外の暦が関わる場合は、原則として西暦以外の暦と西暦を併記する。ただし、西暦のみの表記も可とする。

[例]

年代：単年のときは、1945 年、複数年のときは、1945-48 年（1945-8 年としない）と記す。

人名：アブー・ハーミド・ガザーリー（Abū Hāmid al-Ghazālī, d. 505/1111）

ホメイニー（Rūh Allāh Mūsavī Khomeynī, 1902-1989）

6) 文献の引用

① 引用文献や参照文献の詳細な書誌情報は、原則として脚注には記さず、原稿の末尾に一括して載せる（古典を多用する場合は、人文方式も可とする。但し、書名には下線を引かず、イタリックにする）。

② 本文および注の中で、引用または参照のために文献を挙げるときは、著者名、発行年、（必要なら）ページ数を [] し、本文中に入れることとする。ただし、その文献の著者名が文の主語となっている場合は、発行年（及びページ数）のみを [] に入れることとする。

[例]

…… [Tabata 1978: 147]

…… [吉本 1975a: 15-18]

…… [坪井 1979: Ch. IV]
…… [福田ほか 1979]
…… [Fukushima et al. 1980]
…… [大黒 1987; Johnson 1998]
…… [Robertson, H. 1979; Robertson, S. 1998]
…… [Yamada 2000: 7–17; 2002: 37–59]
…… [IIBI] (オンライン文献の場合は、閲覧年月日を記載しない)
吉本 [1975a: 15–18] は、……

③同一の文献を繰り返し引用や参照する場合には、そのつど上に示した文献表記をし、原則として前掲書、同上書、*ibid.* や *loc. cit.* など使わない。

7) 引用文献リスト

本文および脚注において引用した文献は、すべて原稿の末尾にまとめ、下記の方法により記入する。

①一般原則

文献表示の順

a. 単行本、多巻本など

- (1) 著者の姓・名
- (2) 発行年 (西暦)
- (3) 『書名』 シリーズ名 (カッコ書きする)
- (4) 出版地・発行地名 (外国語文献の場合のみ記入)
- (5) 出版社・発行所名

b. 雑誌、論文、新聞など

- (1) 著者の姓・名
- (2) 掲載紙誌の発行年 (西暦)
- (3) 論文タイトル
- (4) 掲載紙誌名
- (5) 巻・号
- (6) ページ

②リストの順

a. 日本語文献、外国語文献の順で記す。

b. 日本語文献は著者の五十音順、外国語文献は著者のアルファベット順で記す。(アラブ人の人名などで al- が付く場合、al- は表記するが、順番としては al- を除いた場所に入れる。)

c. 同一著者による複数の著作は年代順で記す。

[例]

i) 日本語文献の記載例

a. 単行本

井筒俊彦 1975 『イスラーム思想史』 岩波書店。

—— 1992 『イスラーム哲学』 (井筒俊彦著作集 5) 中央公論社。

b. 論文

・単行本所収論文

菅原和孝 1999 「現代のブッシュマン——定住化と再移住」 川田順造（編）『アフリカ入門』新書館,
pp.135–154.

・雑誌論文

倉沢愛子 1998 「インドネシアの村落開発における情報伝達——『クロンプンチャピル』を中心に」
『アジア経済』39(9), pp.71–90.

c. 翻訳文献

カステル, マニユエル 1997 『都市とグラスルーツ——都市社会運動の比較文化理論』（石川
淳志監訳 吉原直樹・安江孝司・橋本和孝・稲増龍夫・佐藤健二訳）法政大学出版局.

d. 新聞

酒井啓子 2007 年 3 月 17 日 「イラン攻撃は近い？」『朝日新聞』.

『毎日新聞』2000 年 3 月 22 日 「米・インド関係——両国首脳交流拡大の共同声明に署名」.

e. 文書

斉藤良衛 作成年不詳 「日独伊同盟条約締結要録」 外務省記録 B.1, O.O.J/X3-7.

f. オンライン文献

下記 ii) f. に準ずる。

ii) 外国語文献の記載例

a. 単行本

Burke, T. 1996. *Lifebuoy Men, Lux Women: Commodification, Consumption, and Cleanliness in Modern
Zimbabwe*. Durham & London: Duke University Press.

Young, Richard. 2006. *Europe and the Middle East: In the Shadow of September 11*. Colorad & London:
Lynne Rienner Publishers.

al-Şāyigh, Fāṭima. 2000. *al-Imārāt al-ʿArabīya al-Muttaḥida: Min al-Qabīla ilā al-Dawla*. al-ʿAyn: Dār
al-Kutub al-Jāmiʿī.

b. 論文

・単行本所収論文

Obeyesekere, G. 1980. “The Rebirth Eschatology and its Transformations: A Contribution to the Sociology
of Early Buddhism,” in Wendy D. O’Flaherty (ed.), *Karma and Rebirth in Classical Indian Traditions*,
Berkeley: University of California Press, pp. 137–164.

・雑誌論文

Ingold, T. 1990. “An Anthropologist Looks at Biology,” *Man* 25(2), pp. 208–229.

c. 翻訳文献

Bourdieu, P. 1990. *The Logic of Practice*, (tr.) Richard Nice. Cambridge: Polity Press.

d. 新聞

Techawongtham, Wasant. 2000 (Jun. 23). “People made to pay for mistakes,” *Bangkok Post*.

e. 文書

NSC 41 1949 (Feb. 28) Record Group 90 (National Archives/Washington, D.C.).

f. オンライン文献

SW (Social Watch) . 2007. <<http://www.socialwatch.org/en/portada.htm>> (6 月 6 日閲覧) .